

JACET中国・四国支部 Newsletter

第9号

目次

- | | | |
|---------------------------------|---------------|--------|
| ● 巻頭言 | 支部長 松岡 博信 | pp.1-2 |
| ● 2012年度支部大会報告 | 大会委員長 池野 修 | pp.2-3 |
| ● 役員会報告 | 支部長 松岡 博信 | pp.3-4 |
| ● 2011年度支部研究会 OPP 便り—第4回イベントの報告 | OPP 代表 岩井 千秋 | p.4-5 |
| ● 2012年度支部大会のお知らせと
発表応募要領 | | p.5-6 |
| ● 2013年度春季・秋季研究大会予告 | | p.6 |
| ● 事務局だより | 事務局長 平本 哲嗣 | pp.6-7 |
| ● 『JACET 中国・四国支部研究紀要』
投稿募集要項 | 紀要編集委員長 堀部 秀雄 | p.7-8 |
| ● 編集後記 | | p.8 |

巻頭言

—協働という歓び—

中国・四国支部長 松岡 博信

6月9日(土)、愛媛大学教育学部において池野修先生を実行委員長とする支部研究大会が行われた。発表件数は8件、シンポジウムとともに大変充実した大会であった。10月27日(土)には広島市内の安田女子大学で研究会が開催される。支部会員の先生方には是

非ともご発表頂きたいと思う。

本年度は役員改選の時期であり、中国・四国支部の陣容は、質・人数ともに大幅に強化された。これは、平成26年度に広島市立大学において開催される予定のJACET全国大会(国際大会)の実行委員会(委員長は岩井千

秋先生)の組織作りも睨んでのことであるが、新しい役員の先生方も有難いことに今回の大会運営に大いにご協力いただいた。実は、次回の役員改選は2年後ではなく、1年後の一般社団法人移行を前提として、今年度から3年間の役員任期となる。この強力な陣容で全国大会開催に臨むわけであり、今回の愛媛大学における支部研究大会へのご協力、そして役員会や懇親会への役員参加率を見ても、いかに役員の先生方が一致団結して今後の支部運営に関わろうとしてくださっているかが分かる。実際、今回の役員会において、来年6月(予定)の就実大学(岡山市)における春季研究大会の開催と10月(予定)の香川大学を会場とする秋季研究大会の開催が計画され、もうすでにそれぞれの実行委員会が組織されるに至った。このように、今後の支部大会については、春季と秋季の年に2回の開催とし、中国地区と四国地区でそれぞれ1回ずつ開催する計画である。来年度の春季および秋季の支部研究大会において実行委員をお引

き受けくださった先生方のご協力に心より感謝申し上げます。

さらに、ここ数年は角山照彦先生のご尽力で年度内の2月に発行されている支部紀要であるが、内容も益々充実したものになっている。これは、各投稿者のご努力、シンポジウム発表者および査読者の方々のご協力、そして何よりも紀要編集委員同士の不断の協働作業の賜物であると言える。少なくとも投稿された方々の業績を年度内のものとするを目標に、冬休みを返上して、投稿者への連絡、論文査読と最終審査、編集および発行作業に真摯に取り組んでくださっている先生方に、この場を借りて心底よりお礼申し上げたい。最後に、このような確固たる支部運営組織の結末が、「協働という歓び」に繋がって、2年後に支部が担当する国際大会を成功へと導いてくれることを祈念したい。

(安田女子大学)

2012 年度支部大会報告

池野 修

大学英語教育学会中国・四国支部 2012 年度研究大会は、6月9日(土)に愛媛大学教育学部を会場として開催された。研究大会テーマは、シンポジウムのテーマに合わせて、「4技能の統合を目指す授業：大学での実践から得られる示唆」とした。参加者は30数名と多くはなかったものの、多彩なテーマに関する研究発表と活発な意見交換が行われ大変充実した内容の大会となった。

研究大会の前半の部では、8件の研究発表が行われた。第1室(司会：寺嶋健史、敬称省略、以下同じ)では、(1)「コミュニケーション方略タスク：L2受容語彙を発表技能へと伸張させるための活用」(小西廣司)、(2)「英語力と学習意欲の向上に貢献する授業」(岩中貴裕)、(3)「より良い英語の発音を目指すた

めの実際的な助言 Some practical tips for better English pronunciation」(田淵博文)、(4)「ヨーロッパにおけるCEFRの利用の実態について—ドイツの事例を中心に—」(村上泰介・岩井千秋)の4つの発表があった。第2室(司会：瀧由紀子)では、(1)「パブリックドメイン映画を活用したeラーニング教材の開発—eラーニングによる支援は「単位の実質化」につながるのか—」(角山照彦)、(2)「愛媛大学英語教育センターの英語教育改革：単位の実質化に向けた取り組みと発展科目の導入について」(折本素・中山晃)、(3)「高校生の異文化理解と社会的比較についての関係について」(藤居真路)、(4)「「日本文化」は英語でどう表現できるか?—翻訳の理論と方略をめぐる一考察—」(堀部秀雄)の発表が行わ

れた。これらの発表タイトルに見られるように、「異文化理解」や「翻訳」などの伝統的研究課題に新たな視点から切り込んだものから、近年話題になることの多い「CEFR」や「eラーニング」を対象としたものまで、多様なテーマに関する研究、斬新な視点を持った研究の成果が公表された。新たな知を創造する「学術的価値」と、大学英語教育の改善に役立つ情報を提供する「実践的価値」のバランスの取れた研究発表になったように思う。

研究大会の後半部のシンポジウムでは、「4技能の統合」というテーマを取り上げた。

「Theme-based Language Instructionにおける4技能の統合」(池野修)、「4技能が統合されていくプロセスを追う：愛媛大学における英語プロフェッショナル養成コースの学生を事例として」(中山晃)、「4技能の統合をうながす実践共同体の演出」(三熊祥文)という3つの提言があった。時間が押しすぎていたため、質疑応答の時間がわずかであったのは残念であったが、4領域の「能力」の統合(その過程)と4技能の「指導」の統合を区別する必要性、スピーチ指導において4技能をまとめる理論的概念としての「祭り」の有効性などが議論された。

大会後には、「銀次郎」という和食料理店において懇親会が開催され、大会参加者のほとんどに参加をいただいた。研究発表の内容を起点とした話から、大学英語教育の課題、中国・四国支部活動の活性化、勤務校の状況まで、話はずみで、親睦を深める貴重な機会となった。時間的制約がなければ一晩中でも話が盛り上がる感じであったが、この日のうちに多くの方が広島・岡山・高松までに帰る必要があったため、それが逆に適度なところで会を閉じるきっかけとなったかも知れない。

シンポジストのお一人である三熊先生は、発表の中で「祭り」というキーワードを用いて英語スピーチ実践を論じられたが、支部研究大会もまさに「祭り」であり、研究活動活性化の重要な契機となるものである。学内業務等に忙殺される状況で、中国・四国支部研究大会は地理的にも参加が容易とは言えないが、その規模に関わらずこの「祭り」を充実したものにしていく重要性を再認識した。発表や司会を行って下さった先生方、参加いただいた方々、大会運営を補助してくれた学生さんに心よりの感謝を申し上げたい。

(愛媛大学)

2012年度 JACET 中国・四国支部

第1回役員会 議事録

日時：2012年6月9日(土)

11時～12時10分

場所：愛媛大学教育学部102講義室

議題：

1. JACETの一般社団法人移行について

現在JACETは、一般社団法人として本年度中の文部科学省への申請の準備中であり、順調に行けば、来年度4月1日から一般社団法人に移行し、完全な新体制となる。申請が認可されれば、本年度は旧体制での最後の年度となる。

新体制が始まる来年4月には役員交代は行わず、本年度から新体制での役員交代時予定時期の2015年3月末までの合計3年間、支部役員の方々におかれましては、継続して役員を務めていただきたくお願いしたい。(松岡)

2. 今後のNewsletter発行の形態について

今後1年間は、紙ベースで発行するが、同時に支部会員メーリングリストでも発行し、HPにも掲載する。来年度

は、希望依頼のある会員のみ紙ベースの発行を継続するが、特に希望しない会員には、メーリングリストのみで送る。HP掲載は来年度以降も継続する。

日については、役員が多い安田女子大学の来年度の予定および他の学会の動向を注視し、10月の支部役員会にて最終決定することとした。

3. 今年度の行事について

支部研究会を10月27日（土）に安田女子大学にて行うことが確認された。実行委員は、安田女子大学内の支部役員が主に務める。OPP（Oral Presentation and Performance）は、12月15日（土）広島工業大学の予定である。

4. 来年度の事業計画について

2013年度からは、6月を目途に開催される支部の研究大会を「春季研究大会」と呼び、10月を目途に開催される研究会を「秋季研究大会」を呼ぶことにしたいとの提案がなされ、承認された。春季については、就実大学で開催されることが決定された。また、秋季については、役員がおられるが、昨年度ブロック研究会が行われたので香川大学を第2候補とし、役員がおられない徳島地区を第1候補とした。（結果的に、香川大学に決まった）なお、春季の期

5. 会計報告

会計担当の山川先生が作成してくださった資料を元に、支部長が説明を行い、承認された。

6. 支部紀要について

投稿規定に「学術論文」とある表現を、紀要にある「研究論文」の名称に合わせることを決定した。同時にHPの投稿規定も差し替える。本年度は、堀部先生が編集委員長を務めてくださっているが、本年度紀要編集の全過程を終了した後に、編集長の再任依頼か新規就任かについては改めて役員間で協議することとした。

7. その他

2014年度に開催が決定している中国・四国支部役員会が実行組織となる全国大会についての協議がなされた。

（文責） 支部長 松岡博信

2011 年度支部研究会 OPP 便りー第4回イベントお知らせ

OPP 代表 岩井 千秋

早いもので私たちの支部で実施している Oral Presentation and Performance (OPP) の研究交流活動は今年で第4回を迎えます。以下に今年度の予定をお伝えします。

OPP 研究会ではこれから発表参加者（学校単位）の募集を開始します。エントリーご希望の方は以下をご参照ください。

募集期間	7月中旬～9月下旬頃まで。
開催日時	2012年12月15日（土） 午後1時～5時頃まで。
開催場所	広島工業大学デネブホール

募集条件

1. JACET 支部会員であればどなたでもエントリーできます。
2. 先生方が指導されている学生さんにプレゼン（平均 10～15 分程度、上限 30 分まで）をしていただきます（先生方のプレゼン参加も歓迎します。）
3. 募集は先着順とし、8 校程度に達し次第、受付を終了させていただきます。
4. 申込みは代表者にメールください。

iwai@intl.hiroshima-cu-ac.jp

OPP 研究会は 2009 年に発足し、イベントへの参加校数は初回が 6 大学、第 2 回が 7 大学、そして昨年が 8 大学と徐々に増えてきました。回を重ねるごとに発表方法・内容が洗練され、独創的な出し物が多くなっています。演じる側にとっても観る側にとっても刺激的なイベントになりつつあります。イベントを通じた教員間の交流も盛んになり、今後は研

究としての取組みも充実させていくことを計画しています。ちなみに、OPP の目的は、スピーチコンテストなどとは異なり、英語学習者よる発表を競うことが目的ではありません。多くの会員の皆様に気軽に参加していただけることを関係者一同心から願っています。

なお、OPP では専用のウェブサイトを用意し、これまでのイベントを資料や画像、それに報告書で紹介しています。一部パスワードが必要な箇所がありますので、ご希望の方は代表者までご連絡ください。

OPP ウェブサイト：

<http://chiaki.intl.hiroshima-cu.ac.jp/Bulletin/07OPP/>

それでは今年も多くの皆様のお越しをお待ちしています。

(OPP 代表 岩井千秋、広島市立大学)

2012 年度支部研究大会のお知らせと発表応募要領

事務局長 平本 哲嗣

6 月 9 日(土)に開催された支部役員会にて、2012 年度秋季研究大会について話し合いが行われましたので、お知らせいたします。

支部研究大会

*日時：2012 年 10 月 27 日(土)

*場所：安田女子大学

方法、結論、引用文献など日本語の場合は 600 字以内、英語の場合は 250 words 以内とする。

f. 所属 (Affiliation) :

g. 使用機器 (Equipment needed) :

h. 連絡先 (Contact Address) : メールアドレスなど

A) 応募情報

英語での併記もお願い致します)

- a. 発表題目 (Title) : 日本語と英語
- b. 種別 (Style) : 自由研究発表, 実践報告, 事例研究など
- c. 氏名 (Name) :
- d. 研究領域 (Research Area) :
- e. 概要 (Abstract) : 目的, 背景, 仮説,

B) 申込応募期間

支部大会

2012 年 8 月 15 日(水)～10 月 15 日(月)
午後 11 時 59 分まで

C) プログラムおよび発表スケジュール

詳細は支部会員 ML でお知らせします。
(支部会員 ML へのアドレス追加をご希望の方は事務局までご連絡ください。)

■中国・四国支部ホームページにも情報を掲載いたします。
<http://jacet.edu.yamaguchi-u.ac.jp/>

■申込先
事務局幹事 平本哲嗣
hiramoto@yasuda-u.ac.jp

～2013年度春季・秋季研究大会予定～

2012年度役員会にて2013年度の研究大会および支部研究会の予定が決まりましたので、お知らせ致します。(2013年度より支部研究大会は「春季研究大会」、支部研究会は「秋季研究大会」と名称を変更いたします)。

春季研究大会

日程：2012年 6月上旬(土)
場所：就実大学(予定)

秋季研究大会

日程：2012年 10月26日(土)
場所：香川大学(予定)

～事務局だより～

7月になり、夏らしい気候となってまいりました。会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

中国・四国支部では研究大会・研究会等のご案内を支部HPをはじめ、葉書やメールにてお知らせしております。年度が替わり異動された会員の方もおられるようで、時には宛先不明のままこちらに返信されるケースもございます。所属、メールアドレス、住所、身分・資格などを変更された場合には、事務局本部 jacet@zb3.so-net.ne.jp までご連絡ください。

★新入会員紹介★

2012年度の新入会員をご紹介します。
(敬称略)

Dhanapala, Kusumi
中住幸治
Begole, Bettina
越智 徹
山中祐子

Fukuda, Steve
西野友一朗

★2012年度支部人事★

2012年度の支部人事および本部運営委員をお知らせいたします。支部活動発展のために力を尽くしますので、どうぞよろしく願いいたします。

支部長(理事) 松岡博信(安田女子大学)
副支部長 岩井千秋(広島市立大学)

社員

筏津成一(鳥取大学)
池野 修(愛媛大学)
岩井千秋(広島市立大学)
小山尚史(岡山大学)
高垣俊之(尾道大学)
高橋俊章(山口大学)
瀧 由紀子(松山大学)
田淵博文(就実大学・短期大学)

鳥越秀知 (香川高専)
三宅美鈴 (広島国際大学)
堀部秀雄 (広島工業大学) (補欠)
西田 正 (福山大学) (補欠)
宮迫靖静 (岡山南高校) (補欠)

山川健一 (安田女子大学)
ローレンス・ダンテ (就実大学)

支部会計
山川健一 (安田女子大学)

事務局幹事 平本哲嗣 (安田女子大学)
支部幹事 高橋俊章 (山口大学)
三宅美鈴 (広島国際大学)

支部研究紀要編集委員会
堀部秀雄 (広島工業大学)
岩井千秋 (広島市立大学)
上西幸治 (広島大学)
角山照彦 (広島国際大学)
高橋俊章 (山口大学)
平本哲嗣 (安田女子大学)
松岡博信 (安田女子大学)

研究企画委員

筏津成一 (鳥取大学)
池野 修 (愛媛大学)
岩中貴裕 (香川大学)
上西幸治 (広島大学)
角山照彦 (広島国際大学)
橘野実子 (安田女子短期大学)
小山尚史 (岡山大学)
高垣俊之 (尾道大学)
高橋俊章 (山口大学)
田中博晃 (広島国際大学)
田辺尚子 (安田女子大学)
田淵博文 (就実大学)
寺嶋健史 (松山大学)
鳥越秀知 (香川高専)
西田 正 (福山大学)
平本哲嗣 (安田女子大学)
堀部秀雄 (広島工業大学)
三熊祥文 (広島工業大学)
三宅美鈴 (広島国際大学)

2012年度本部運営委員

総務委員会 (支部代表幹事)
平本哲嗣 (安田女子大学)
財務委員会 (支部会計担当)
山川健一 (安田女子大学)
全国大会 田中博晃 (広島国際大学)
広報・通信 鳥越秀知 (香川高専)
ネットワーク管理
松岡博信 (安田女子大)
紀要 堀部秀雄 (広島工業大学)
セミナー事業 田淵博文 (就実大学)
国際交流 堀部秀雄 (広島工業大学)
研究会担当 岩井千秋 (広島市立大学)
JACET賞 筏津成一 (鳥取大学)

～ 『JACET中国・四国支部研究紀要』 投稿募集 ～

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく学術論文、実践研究報告、研究ノート、および書評の4つの分野の研究結果を発表する場として、年一回3月に支部紀要を刊行しています。

応募資格は、所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委嘱原稿については、この限りではありません。

投稿論文は、原則として過去2年以内に

開催された全国大会および支部大会で発表を行った研究にもとづくものが望ましいです。

審査は、委嘱原稿を除き、紀要編集委員会が指名する審査員が担当し、査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決定いたします。

JACET中国・四国HPにある投稿規程をご参照の上、奮ってご応募ください。

なお、発行までの日程は原則として下記のとおりです。

- 投稿原稿締め切り：10月末
- 審査結果通知：12月末
- 修正原稿締め切り：1月末
- 刊行：3月末

送付先：紀要編集委員会委員長
堀部 秀雄（広島工業大学）
E-mail: horibe@cc.it-hiroshima.ac.jp

編集後記

梅雨のしっかりとした雨の中、長靴を履きあえて水溜りの中をジャブジャブと歩いた子どもの頃を、アジサイの花を見ると思い出す。濡れること恐れなかった。むしろ、雨ふりが楽しみで、雨の中の公園へひとりでも遊びに行っただけだ。

先日、ある講演で、子どもの心を持って授業づくりをする大切さについて述べられていた。成程と思った。

雨に濡れることを躊躇わず、雨と戯れ、雨の恵みを甘受している草花や生き物を楽しんだように、その昔、忘れられない授業を受けたときの感動を思い出し、今一度、自分の授

業を振り返りたいと素直に思う。

(MM)



JACET 中国・四国 Newsletter 第9号

2012年7月10日 発行

発行人：JACET 中国・四国支部(支部代表 松岡 博信)

編集：JACET 中国・四国支部 三宅 美鈴

発行所：〒739-2695 東広島市黒瀬学園台 555-36 広島国際大学 保健医療学部臨床工学科
三宅 美鈴

連絡先：Tel:0823-70-4563 FAX:0823-70-4544 E-mail: m-miyake@it.hirokoku-u.ac.jp